2026年11月6日
クラサスケミカル株式会社
大分製紙株式会社

クラサスケミカル × 大分製紙

自社資源循環と地域連携取り組みを開始

～ 排出される紙ごみをトイレットペーパーに再生・活用 ～

クラサスケミカル株式会社大分コンビナート（本社：大分県大分市、コンビナート代表：山田　暢義、以下「クラサスケミカル」）と家庭用紙製造を手掛ける大分製紙株式会社（本社：大分県大分市、代表取締役：田北　裕之、以下「大分製紙」）は、クラサスケミカル大分コンビナートから排出される紙ごみの地域資源循環を目的としたリサイクルを共同で開始しました。本取り組みを通じて、クラサスケミカル大分コンビナートにおける「クローズドループ（自社内資源循環）型」のリサイクルスキームが確立しました。

■ クラサスケミカルにおけるリサイクルの仕組み

クラサスケミカル大分コンビナートから排出される機密古紙、オフィス古紙などの紙ごみを、大分製紙のリサイクル技術によって溶解・再生し、トイレットペーパーを製造します。完成した製品は、クラサスケミカル大分コンビナートにて使用されます。





■本取り組みの3つのポイント

１．「地産地消型」の循環モデル

九州域内で発生する紙ごみを、九州域内の工場にて再製品化し、九州域内にて使用します。地域内で資源を循環させる「地産地消型」の循環モデルです。

２．高度なセキュリティーと再生技術の両立

大分製紙は、機密文書を万全の管理体制下で溶解・再生します。安全かつクリーンな再資源化を通じ、情報管理と資源循環の両立を図ります。

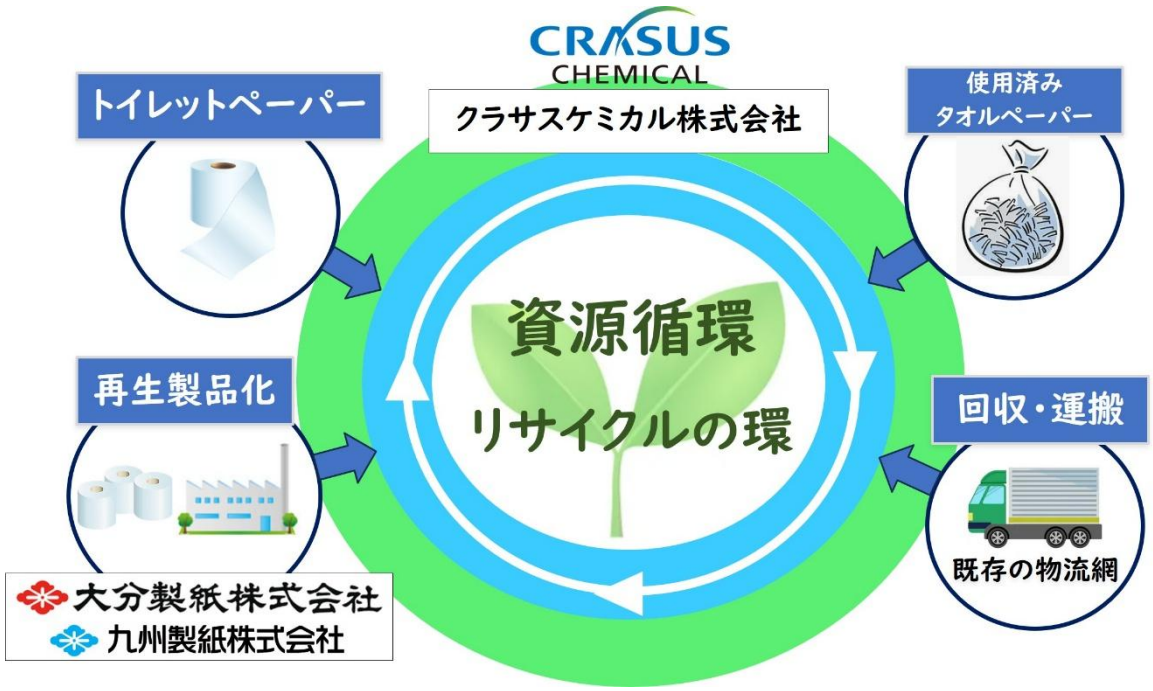
３．廃棄物削減への継続的な挑戦

クラサスケミカル大分コンビナートでは、廃棄物の発生抑制（リデュース）と、可能な限りの再資源化（リサイクル）を推進しています。加えて、再生されたトイレットペーパーを大分コンビナート内で使用することで、資源の有効活用と環境負荷の低減を目指します。

■CO2削減と廃棄物抑制を同時に実現

本取り組みは、クラサスケミカル大分コンビナートにおける廃棄物の抑制と、大分製紙による古紙の再生利用を通じたCO2排出量の削減の両方に貢献するものです。具体的には、焼却処分との比較において、古紙1トンあたり約766kg※のCO2排出削減が見込まれます。紙ごみの削減だけでなく、地域内での資源循環を促進し、脱炭素社会の実現にも寄与します。

※出典：環境省請負調査「平成16年度容器包装ライフ・サイクル・アセスメントに係る調査事業報告書-飲料容器を対象としたLCA調査-」



■今後の展望

クラサスケミカル大分コンビナートと大分製紙は、これまで培ってきた資源循環の取り組みを活かし、持続可能な社会の実現に向けた連携を深めてまいります。今後とも両社は、それぞれの強みを活かしながら、環境負荷低減と資源の有効活用を両立する取り組みを推進し、循環型社会およびカーボンニュートラル社会の実現に貢献してまいります。

■会社概要

クラサスケミカル株式会社

本店所在地	大分県大分市大字中ノ洲2番地
代表者	代表取締役　福田　浩嗣
設立	2024 年 8 月
事業内容	基礎石油化学製品、有機化学製品、合成樹脂製品等の製造・販売
企業 URL	https://www.crasus.co.jp/

クラサスケミカル株式会社は、大分を拠点に、石油化学事業を通じ社会に欠かせない製品やサービスを提供し、多様な産業の発展と人びとの豊かなくらしを支えてきました。

「明日のくらしを化学で支える」というパーパスのもと、カーボンニュートラルと循環型社会の構築をリードし、社会の持続的な発展に貢献する次世代石油化学カンパニーの実現を目指しています。

大分製紙株式会社

所在地	大分県大分市錦町2-15-27
代表者	代表取締役　田北　裕之
設立	1953 年 10 月
事業内容	家庭用紙製造販売
企業 URL	https://www.oita-seishi.com/

大分製紙株式会社は、大分県大分市に本社を置く家庭紙製造メーカーです。1953 年に設立され、九州域内（大分県・福岡県）に 3 工場の生産体制を敷いています。主に古紙を原料としたトイレットペーパーを製造しており、トイレットペーパーの生産規模は国内トップクラスで、全国シェアでは約6%、九州域内における生産量では60%超の規模を有しています。「地域と共に発展する」という経営理念のもと、紙の地域資源循環型リサイクルシステムの構築を目指しています。森林資源の保全、ごみの減量、CO2排出削減などの地域社会への貢献とともに、安価で高品質な製品の供給を通じて、暮らしに「快適さ」を届ける会社であり続けます。